

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

第7回定時社員総会開催される

当協会は、第7回定時社員総会を平成29年6月13日（火）に東京都港区芝公園二丁目のメルパルク東京において、多数のご来賓、会員、報道関係者が出席のもと開催しました。

原田会長は、冒頭の挨拶の中で、「我が国の経済は、雇用・所得が改善して緩やかな回復基調が続いている。先行きについても、海外経済の不確実性はあるものの、輸出の回復や公共投資の増加等により、緩やかな回復が続くものと見られ、経済の好循環の進展が期待される。このような中で、平成28年度の新設住宅着工戸数は、97万4千戸と前年度に比べて5.8%増と大きな盛り上がりとは言えないまでも、住宅需要の回復が感じられる状況となった。プレカ



原田会長の挨拶

ット工場の稼働率は、これらを背景に堅調に推移しましたが、依然として引き続き加工単価の下落低迷と資材の入手環境の変化によって、厳しい業況が続いた。一方、我が国の森林資源のポテンシャルは着実に増大している。木材自給率50%の実現に向けた総合的な木材利用の推進や加工流通体制確立等の施策展開が進められ、これからの木材産業の成長産業化へ進展が期待されている。プレカット加工業は木材生産と木造建築物生産分野の接点に位置している。工務店等のお客様のご要望に添った安全・安心の住宅供給のためには、品等格付けされた資材の使用とともに、住宅の構造計画を担うCADオペレーターの役割は重要である。昨年度、当協会が技術支援対策として実施したCAD技術者研修には非住宅分野への対応も含め全国で122名の受講者があり、また、プレカットCAD技術者認定登録においては314名が登録している。本年度においても、より一層この取り組みを深化させるとともに、プレカット加工



第7回定時社員総会会場

CADを活用した各種の木造住宅建築に関するサービスの支援を行っていく所存である。これらに加えて、会員を対象とした合法木材供給事業者認定の実施、業務支援として、非住宅木造建築物も加えたプレカット部材瑕疵保証事業の推進のほか、今年8月からは新たに、会員の経営安定のためのリスク保全事業として『プレカットミス賠償責任保険制度』による事業を開始することとしている。

ご来賓をはじめ関係者の皆様には、今後とも当協会に対してよろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。」と、厳しい環境の中においても協会活



井口室長の祝辞

動の活性化に向けた決意が述べられました。

また、来賓を代表して、林野庁木材産業課木材製品技術室長 井口真輝様からは、「在来工法のプレカット率は、平成7年は7%だったものが、皆様方の絶え間ない努力で最近では90%まで達している。あらためて、皆様方のご尽力に敬意を表する。一方で我が国の人口は減少すると見込まれており、住宅分野に加えて非住宅分野における需要拡大について林野庁では各般の施策を講じている。JAS製品を増やす手立てとして、木材加工施設等への補助については、JAS認定を取得し、しかも、一定規模の工場であれば生産量の半分以上をJAS製品とした。プレカット加工についても生産量を

入荷量に置き換えれば、同じ要件になる。また、昨年、地球温暖化防止のためのパリ協定が発効したが、達成のためには、国産材の需要拡大が重要。さらに、クリーンウッド法が先月施行されたが、趣旨は、木材関連業者が自ら取扱う木材を確認することにより、違法木材を市場から追放することにある。会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。」との祝辞がありました。

次に、国土交通省住宅局木造住宅振興室長 澁谷浩一様の代理として国土交通大臣官房付住宅生産課 楠田勝彦様から「皆様には、平素から木造振興にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。我が国では伐採期を迎えた豊富な森林資源を有効活用し、地方創生や地球温暖化防止への積極的な対応を図る観点に加え、木材利用や木造振興への期待、要請が益々強くなっている。国土交通省では、昨年、5年ぶりに策定した住生活基本計画において、様々な木造関連施策を位置付けた。今年度は、地域の中小工務店グループによる良質な木造住宅等整備への支援、先導的な設計、施工技術を導入した木造建築物への支援、大工技能者の育成支援など関係省庁や団体と連携するとともに、木造建築の可能性を拡げるべく、建築基準の法令化についても継続的に取組む。また、CLTについて、設計施工マニュアルに関する講習会や補助制度など普及促進を図っている。皆様方には引き続き、木造振興へのご支援ご協力をお願いします。」との祝辞がありました。



住宅局楠田氏の祝辞

総会の議事では、まず、平成28年度事業報告、収支決算報告が上程され、事務局説明の後、長江監事の監査報告があり、原案どおり可決されました。また、役員を選任が行われ、ほとんどの理事は留任となり、会長、副会長は再任されましたが、新常務理事には員外から下堂健次氏が選任されました。

さらに、平成29年度事業計画、収支予算について報告事項として説明され、異議なく了承されました。

総会に引き続き、銘建工業株式会社 代表取締役会社長 中島浩一郎氏による「CLT これからの展望」と題した記念講演が行われました。

講演の中では、日本CLT協会の会長を務められている中島浩一郎社長が、製材、構造用集成材、大断面集成材への対応、地域への木質バイオマス発電導入など、時代の変化に対応しながら事業を拡大してきた変遷を語るとともに、豊富な資料写真を用いてCLTが海外において大規模に普及しつつある現状や国内においても公共建築物への実績はもちろんのことCLTを利用した宿泊施設への活用、熊本地震被災地へCLT建物を寄付等、昨年国内初のCLT専用大型工場を完成させるなど国内での需要拡大・普及に尽力されている状況をわかりやすくお話いただきました。最後に、プレカット協会が私ども木材業界で一番先導していただいているので今後も益々引っ張っていただき、CLTともちゃんとドッキング出来ると講演を締めくくられました。



講演中の中島浩一郎氏

木材利用推進「全国会議」開催のお知らせ

平成 29 年度木材利用推進「全国会議」は次の日程で開催されることが決定しました。木の街づくりの新時代を開く取り組み事例を中心に、関係省庁の公共建築物・街づくり等の木材利用推進の取組や講演を予定しています。会員の皆様の多数ご参加をお待ちしております。

日 時：平成 29 年 7 月 31 日（水）13：00～17：30

場 所：木材会館 7 階ホール 東京都江東区新木場 1 - 18 - 8

第 1 部 木材利用推進「全国会議」

1 木材利用推進中央協議会会長挨拶

2 来賓挨拶

林野庁

国土交通省

3 公共建築物・街づくり等木材利用推進の取組み（国の施策・取組み）

①林野庁 木材利用課

②国土交通省 大臣官房官庁営繕部木材利用推進室

③文部科学省 官房文教施設企画部施設助成課

4 木の街づくりへの取組み事例

真庭市落合総合センター、京都市上京区総合庁舎など

講師 株式会社 東畑建築事務所 中村 文紀氏 理事 設計総括

5 講演

中高層木造建築物の耐火及び新潟県糸魚川大火の教訓

講師 安井 昇氏 桜設計集団一級建築士事務所 代表

第 2 部 木材利用優良施設の表彰式

平成 29 年度木材利用優良施設の表彰式

(1) 審査講評 審査委員長

(2) 賞状授与 ①農林水産大臣賞

②林野庁長官賞

③木材利用推進中央協議会会長賞

(3) 祝辞 林野庁長官

(4) 挨拶 受賞者代表

地域林業・木材産業機械設備リース導入支援事業

平成29年度の募集が開始

リースで木材加工設備導入時の費用を助成

全国木材協同組合連合会では、地域林業・木材産業機械設備リース導入支援事業を実施しており、平成29年度の募集が、5月31日から始まりました。

事業内容は、高性能林業機械や木材加工設備をリース導入する場合、助成するもので、川上から川下まで幅広い業種を対象としています。この中で、プレカット加工業については、建築用木製組立材料製造業が助成対象となっており、対象機械として、CAD（設計業務を自動的に行うコンピューター装置）、CAM（コンピューター制御による住宅部材製造加工装置）等が含まれています。助成額、支払い手続き等が、昨年度までと変更されています。詳細は、全国木材協同組合連合会（TEL 03-3580-3215）、または、最寄りの各都道府県木材協同組合連合会までお問合せ下さい。

◎募集期間

平成29年5月31日（水）～ 平成29年8月4日（金）

◎事業の目的

高性能林業機械、小型の林業用機械及び木材加工設備のリースによる導入を支援することにより、導入手段の多様化と入手コストの軽減等（特に初期投資の軽減）を図り、低コストで安定的な国産材の供給及び品質・性能の確かな木材製品の安定供給を促進

○助成対象機械・設備

- ・高性能林業機械（プロセッサ、グラップル、フェラーバンチャ 等）
- ・リース物件価格が概ね300万円以下の小型の林業用機械（平成28年度から新たに対象となった）
- ・木材加工設備（モルダ、CAM（プレカット機械）等）

○応募要件

〈木材加工設備の場合〉

- ・木材関連事業者等の組織する団体のほか製材業等に該当する者
- ・木材・木材製品の合法性又は持続可能性を証明する方法
- ・大型木材乾燥設備の場合：年間木材取扱量（製材品）1,000 m³以上
- ・リース期間が5年以上8年以内 等

○助成額

次の算式により計算していずれか小さい額

- （ア）（リース物件価格）×（リース期間／法定耐用年数）×1/10以内
- （イ）（リース物件価格－残存価格）×1/10以内

○申請・請求・支払い

- ・平成29年8月4日までに、交付規程で定める様式第1号の1（林業機械の場合）又は様式第1号の2（木材加工設備の場合）の申請書を地域木材団体に提出して下さい。（高性能林業機械の場合は、1申請1台でお願いします。）
- ・この後、審査委員会による審査を経て、助成の可否を判断します。
- ・助成決定後、リース契約の締結、リース物件の納入、助成金の請求・支払いを年度内に行うこととなります。助成決定前にリース契約を締結された場合は助成の対象となりません。したがって、助成決定の通知があるまでは、リース契約は締結しないで下さい。

平成28年 協会会員工場基礎調査結果について（第2回）

— 会員からみたプレカット加工率について —

平成28年12月末現在の会員工場基礎調査結果に基づき、地域別のプレカット加工率を推定しました。その結果、全国平均では92.0%となりました。会員の皆様には、ご多忙中のところアンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

プレカット加工率(%)	北海道・東北	関東	中部・近畿	中国・四国・九州	全国計
75～79		77			77
80～84	80、80、				160
85～89	85、87		85、85		342
90～94	90、90、 93	90、90、 90、90、 90、93	90、90、 93、93、 93	90、90	1,455
95～	95、98	95、95、 98、98、 100	95、95、 95、98、 100	95、95、 95、95、 95、96、 98	1,831
合計	798	1,106	1,112	849	3,865
(平均)	(88.7)	(92.2)	(92.7)	(94.3)	(92.0)
[前年平均]	[85.0]	[93.8]	[93.6]	[92.5]	[91.4]

◇簡単なコメント

- 平成28年12月末の会員が推定する地域のプレカット加工率は、全国平均で92.0%と前回調査（平成26年12月末）に比べて0.6ポイント上昇しました。平成28年の在来軸組住宅の着工数は、40万9千戸と対前年に比べ+8.9%になり、平成25年に並ぶ着工数となりました。このため、現場での労働力需給の関係等からも、現場作業の一層の合理化が進み、プレカット加工率を押し上げる要因になったと思われます。
- 全国各地域のプレカット加工率についてみると、北海道・東北地域では、最近、加工率は上昇傾向にあり、今回は、3.7ポイント上昇し88.7%になっています。一方、その他の地域においては、ハウスメーカーによる施工も多いことから、プレカット加工率はともに92%を超えており地域間のアンバランスが顕在化しています。

この調査は、主要構造部材を対象としたプレカット加工率ですが、各工場においては、主要構造部材のほか、これに付随する構造用合板、羽柄材等のプレカット加工も併せて行っており、より多様化したプレカット部材の使用が現場作業の一層の効率化と施工性の向上に寄与していると思われます。

プレカット業況調査(平成29年5月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 40%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	35	42	23	+12	-38
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	27	65	8	+19	+29
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,020円(対前回調査-20円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	8	80	12	-4	-3
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	88	12	-12	+3
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	4	81	15	-11	-14
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	4	69	27	-23	-5
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	27	54	19	+8	-38
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	15	77	8	+7	+26

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査: 平成29年2月

◇簡単なコメント

5月の各設問のDIをみると、受注額、収益は好転しているが、3ヵ月後についても大幅に改善すると予測されている。これに対して、加工単価についてはほぼ現状維持で推移するとみられていたが、弱含みとなった。また、資材の入手環境は、変わらずから困難の予想となっており、3ヶ月後もタイト感が続く見通しである。今後は、秋の需要期に向けて、現在の受注額、収益がどの程度維持されるのか期待したい。

1. 受注額のDIは+12で前回調査時(平成29年2月期)に比べて、好転しており秋の需要期を反映している。また、3ヶ月後の予測のDIも+19で現状から上乘せが予想される。今後、秋の需要期を迎え、業況の活性化をもたらすと期待される。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-4と下落に振れており、平均総加工単価は6,020円と3ヵ月前と比べて20円低下しているが、ほぼ横ばいの範疇といえるであろう。3ヵ月後の製品加工単価のDIは-12で、受注量が増加すると見込まれる中で加工単価の上昇は期待薄であるということは厳しい現状といえる。
3. 資材入手状況のDIは-11でタイト感が続いている。3ヵ月後の予測のDIは-23(前回は-5)であり、この状況は続くものとみられる。
4. 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは+8と好転しており、前回調査時の3ヶ月後の収益予測が+26であったことからしても好調さを維持している。一方、3ヶ月後の収益予測は+7となっているが現状維持が約8割の予想となっている。